利尻研究 (25): 33-36, March 2006

利尻島における鳥類の新分布および稀少種の記録 (4)

田牧和広 [1]・小杉和樹 [2]・佐藤雅彦 [3]

[1] 〒 097-0211　北海道利尻郡利尻富士町鬼脇字清川
[2] 〒 097-0401　北海道利尻郡利尻町沓形字富士見町
[3] 〒 097-0311　北海道利尻郡利尻町仙法志字本町　利尻町立博物館

Rare Visits and Newly Recorded Birds from Rishiri Island, Northern Hokkaido (4)

Kazuhiro Tamaki[1], Kazuki Kosugi[2] and Masahiko Satō[3]

[1]Kiyokawa, Oniwaki, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0211 Japan
[2]Fujimi-cho, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan
[3]Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

Abstract. The following 3 species were newly recorded from Rishiri Island, northern Hokkaido: *Phalacrocorax carbo, Ixobrychus sinensis* and *Calcarius lapponicus*. We also report 3 species and 1 unidentified species of rare visits with additional records and pictures.

筆者らによって 1994 年から 2005 年までの間に観察された利尻島未記録種 3 種と島内での確認が稀な 3 種およびその他の鳥 1 種について報告する．観察記録は，【観察場所】，観察年月日，観察者，個体数の順に記し，和名および学名については，日本鳥類目録（日本鳥類目録編集委員会, 2000）に従った．計測値はすべて mm，体重については g で表記した．なお，マガンの情報を提供していただいた高田雅之氏（北海道環境科学研究センター）に心から感謝を表する．

カワウ　*Phalacrocorax carbo* (Linnaeus, 1758)

【利尻富士町沼浦】2005.iv.29，田牧和広，1

利尻島南部にあるオタドマリ沼の遊歩道の上で休んでいるウの一種を発見した．カワウとウミウ *Phalacrocorax filamentosus* は酷似するが，顔の裸出部が黄色い点および口角部に丸みが見られる点（ウミウの口角部は三角に尖る）でカワウと判断でき，この個体は大きな口を開けたり羽繕ろいをしたり，時折羽を広げて乾かしていた（図 1）．観察は 20 m ぐらいの距離で行っていたが，近づこうとすると水面を駆けるように飛び立ち，沼の対岸に移動してしまった．利尻島では，これまで本種の記録はなかった．

ヨシゴイ　*Ixobrychus sinensis* (Gmelin, 1789)

【利尻町沓形字富野】2005.vi.14，大友和夫，1

利尻町森林公園の山側の畑において，大友和夫氏（利尻町沓形字富士見町）によって保護され，夕方，筆者の一人である小杉のところまで持ち込まれた．その時点では外傷もなく，収容された段ボール箱の中で，段ボールを突つくなど元気であったので，翌朝に訪鳥するべく安静保温に努めていたが，15 日の朝に落鳥していた．標本作製は筆者の一人である佐藤が行ったが，外傷などは見当たらなかったものの，胸部などの筋肉のつき方から栄養状態がよくなかったことが伺い知れた．計測値は以下のとおり．標本番号：RTMB337（図 2），体長 308，体重 36，

露出嘴峯長 48.2，ふ蹠長 44.5，尾長 45，最大翼長 125，性別不明．礼文島では標本記録があるが（RTMB170，礼文町久種湖，1997.x.11，ナカジマ），利尻島では，これまで本種の記録はなかった．

マガン　*Anser albifrons* (Scopoli, 1769)

【利尻富士町南浜】1997.x.5，田牧和広，1；1998.ix.22，田牧和広，1；2005.x.18，高田雅之・高田早苗，1；2005.x.19, 佐藤雅彦，1；2005.x.22，佐藤雅彦，1【利尻町仙法志】2005.x.30，張間真理男，1；2005.xi.1，小林伸光，1

これまでマガンの利尻島における記録は記述的なものしかなかったため，ここにその詳細を報告する．筆者らの一人である田牧は 1997 年と 1998 年に単独飛来の個体を各 1 羽ずつ確認した．また 2005 年 10 月 18 日より利尻富士町南浜地区のメヌショロ沼付近において採餌行動を共にするヒシクイとマガン各 1 羽が高田雅之さんらによって発見された．この 2 羽は少なくとも 22 日までは同地に留まり（図 3），比較的人を恐れることなく，歩道付近を共に歩く姿などが観察された．その後，仙法志に移動し，11 月 2 日以降は観察されることはなかった．同属のヒシクイ *A. fabalis* の飛来は度々あるが，マガンが混じることは利尻では非常に稀な例と思われる．

マガモ属の一種　*Anas* sp.

【利尻富士町富士岬】2005.v.1-2，田牧和広，1；2005.v.5，佐藤雅彦，1

利尻島におけるマガモ属はこれまでマガモ *A. platyrhynchos*，コガモ *A. crecca*，カルガモ *A. poecilorhyncha*，ヒドリガモ *A. penelope*，オナガガモ *A. acuta*，シマアジ *A. querquedula*，ハシビロガモ *A. clypeata*，ヨシガモ *A. falcata*，オカヨシガモ *A. strepera* の記録がある（小杉，2000; 小杉ほか，2005）．筆者らの一人である田牧は 2005 年 5 月 1 日に利尻富士町富士岬で 20 羽ほどのヒドリガモを観察中，額から頭頂にかけて淡黄白色で，頭部は薄い葡萄色を呈するとともに，全体に不明瞭な黒斑を伴った 1 個体を発見した（図 4）．この個体は目の周囲から後頭にかけて不明瞭な緑色の帯を備えているものの，典型的なアメリカヒドリ *A. americana* の羽色とは異なっていた．車中より 20 m ぐらい離れた場所で観察したところ，行動は他の淡水カモ類に似ていた．叶内（1998）によれば，ヒドリガモとアメリカヒドリとの交雑も稀でなく，両種の中間的な羽色をした交雑個体と思われるものもあるという．そのため，本個体は両種による交雑個体の可能性も高く，種名を確定せず，記録として写真とともにここに報告するのみにとどめることとした．

オオモズ　*Lanius excubitor* Linnaeus, 1758

【利尻富士町湾内】2001.iii.24, 田牧和広，1【利尻富士町石崎】2002.iv.20，田牧和広，1【利尻富士町二ツ石】1998.xi.20，田牧和広，1【利尻富士町沼浦】1998.iv.1，田牧和広，1；1998.iv.13，田牧和広，1；2000.iii.18，田牧和広，1【利尻富士町金崎】2003.xii.31，田牧和広，1【利尻富士町南浜】1998.x.30，田牧和広，1；1999.iv.11，田牧和広，1【利尻町沓形】1999.iv.10, 田牧和広，1【利尻町沓形字新湊】2005.xi.23，佐藤雅彦，1

小杉（2000）によるとこれまで利尻島におけるオオモズの記録は 4 月から 6 月の 3 か月間と，10 月のみであったが，今回の記録を含めると，3-6 月の春，10-12 月の秋から初冬までと利尻を通過していく様子がはっきりとしてくる．渡来数はかなり少なく，常に 1 個体のみの観察となっている（図 5）．

ヤマヒバリ　*Prunella montanella* (Pallas, 1776)

【利尻町仙法志字御崎】2005.iv.3，田牧和広，1

筆者らの一人の田牧が，民家の近くの草地で餌をついばんでいるところを発見した（図 6）．頭頂部と過眼線が黒褐色，太く明瞭な黄褐色の眉斑が見られ，後頸が青灰色であり，耳羽に黄褐色の斑があることから本種と判断した．大雨覆いの羽色は淡色で静止時には 1 本の翼帯ができる．車中から 10 m ぐらいで観察を継続していたが，車から降り近ずくとすぐに飛び立ち大きな岩の上に留まった．車に戻ると先ほどの場所に戻り再び餌を探しはじめた．本

Figs. 1. *Phalacrocorax carbo*, 2. *Ixobrychus sinensis*, 3. *Anser albifrons*, 4. *Anas* sp., 5. *Lanius excubitor*, 6. *Prunella montanella*, 7. *Calcarius lapponicus*.

種の利尻島での観察記録は小杉 (1991) が初めてであった．その後，筆者の一人である小杉の利尻島沓形における鳥類標識調査では, 1997 年 10 月 25 日, 1999 年 10 月 20 日，2003 年 11 月 2 日にそれぞれ 1 羽の放鳥記録があったが，標識調査以外で観察されることはなかった．

ツメナガホオジロ　*Calcarius lapponicus* (Linnaeus, 1758)

【利尻富士町南浜】1994.xi.23，田牧和広，1 ♂

筆者らの一人の田牧が，利尻島南部にある南浜湿原の草地に降り，餌をついばんでいる本種を確認した（図7）．淡褐色の頭央線と眉斑が見られ，頭側線と頬の周囲が黒く，のどから胸にかけて黒斑が見られた．また，襟の部分が赤茶色であり，大雨覆と中雨覆の先端に２本の白色の翼帯が見える．足は黒色，嘴は黄色であり，これらの特徴によりツメナガホオジロのオスの冬羽と判断した．行動はカシラダカに似ており，観察は車中より 15 m ぐらい離れて行なった．利尻島では，これまで本種の記録はなかった．

参考文献

小杉和樹，1991．利尻島で観察された稀少種の記録．日鳥学誌，(40):36-40.

小杉和樹，2000．利尻島における月別鳥類出現リスト．150-155 pp．寺沢孝毅（編）．北海道島の野鳥．北海道新聞社．札幌.

小杉和樹・田牧和広・佐藤雅彦，2005．利尻島における鳥類の新分布および稀少種の記録 (3)．利尻研究，(24):5-9.

日本鳥類目録編集委員会，2000．日本鳥類目録．改訂第 6 版．日本鳥学会，京都．345 pp.

高野伸二，1984．野鳥識別ハンドブック・改訂版．日本野鳥の会．334 pp.

高野伸二，1995．フィールドガイド日本の野鳥・増補版．日本野鳥の会．343 pp.

叶内拓哉，1998．山渓ハンディ図鑑 7　日本の野鳥．山と渓谷社．東京．623pp.